

令和6年度

富山県公文書館企画展

富山 大正 ストーリー

～15年間ヲ思フ～



『国際画報』一部加筆（北野家文書・富山県公文書館蔵）

令和6年10月3日(木)～11月4日(月)

開館時間：午前9時～午後5時（会期中無休）

入場
無料

FREE ADMISSION

ごあいさつ

今から約100年前の大正時代(1912～1926)は、15年間という短い期間でありながら、第一次世界大戦が起こり、スペイン風邪の世界的な流行をみ、また米騒動や関東大震災など世界や日本の政治、社会・経済活動に大きな影響を及ぼす出来事が起きた時代です。

同時に、社会の中で「大衆」がその存在感を高めていき、政党政治の確立や男子普通選挙の実現、女性の社会進出など「大正デモクラシー」が開花し、現代の民主主義の理念につながる動きが生まれた時代でした。その一方で、中国進出、シベリア出兵など軍靴の音も忍び寄っていました。

この企画展では、富山県の大正時代に焦点を当てました。第Ⅰ部では、工業化を図る富山県の様子を、大正初期の共進会の開催や水力発電事業と、港や軽便鉄道など輸送力の発展を通して紹介します。第Ⅱ部では、自立する民衆の姿を米騒動や普通選挙運動だけでなく、当時の富山県の女性たちの労働の様子を踏まえて紹介します。そして、第Ⅲ部では、後の戦争の時代へつながる様子を第一次世界大戦の様子と大正末期に県内で行われた陸軍特別大演習の内容から紹介します。

これを機に、郷土の歴史の一端にふれていただくと同時に、富山県公文書館所蔵史資料への興味・関心を高めていただき、活用につながる機会となれば幸いです。

企画展を開催するにあたり、多くの方々や機関からご協力やご教示を賜りました。ここに、ご芳名を記して感謝の意を表します。

国立公文書館 富山県立図書館 滑川市立博物館 株式会社クラブコスメチックス
荒木宏(小矢部市) 石神美子(富山市) 海内宏憲(富山市) 河尻裕巳(岐阜県) 北野洋子(富山市)
篠原秀幸(高岡市) 長尾正弥(千葉県) 栢田諧三(上市町) 山本千秋(愛知県)
富山県立砺波高等学校放送部

(順不同敬称略)

令和6年10月

富山県公文書館

目 次

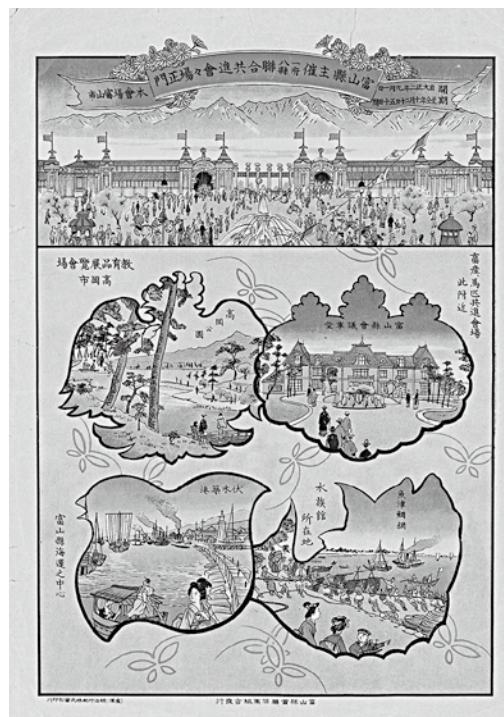
第Ⅰ部 工業化を図る富山県	2
第Ⅱ部 自立する民衆	9
第Ⅲ部 戦争への足音	13
関連年表	17
企画展史資料一覧	18

第Ⅰ部 工業化を図る富山県

大正時代に入り、富山県は農業県から工業県への変革を図ります。明治半ばより本県の懸案事項の一つであった治水事業と並行して行ってきた電気事業、港湾や鉄道の整備により工業県へと転換していきました。

第Ⅰ部では、一府八県連合共進会の内容や電気事業、伏木港や鉄道整備の様子を通じて工業県富山の成立過程を紹介します。

❖ 富山県主催連合共進会リーフレット 大正2年(1913)9月1日



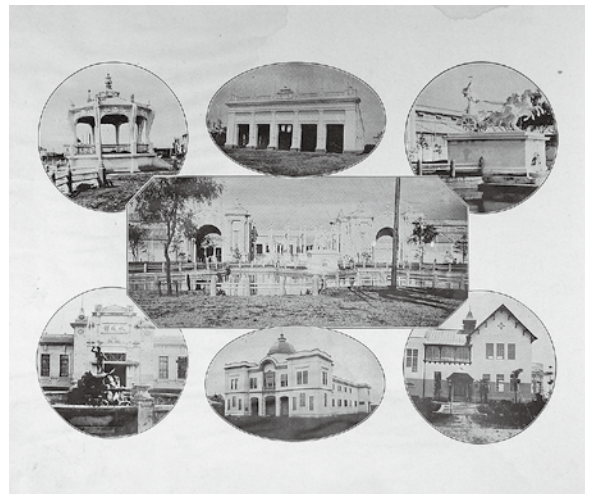
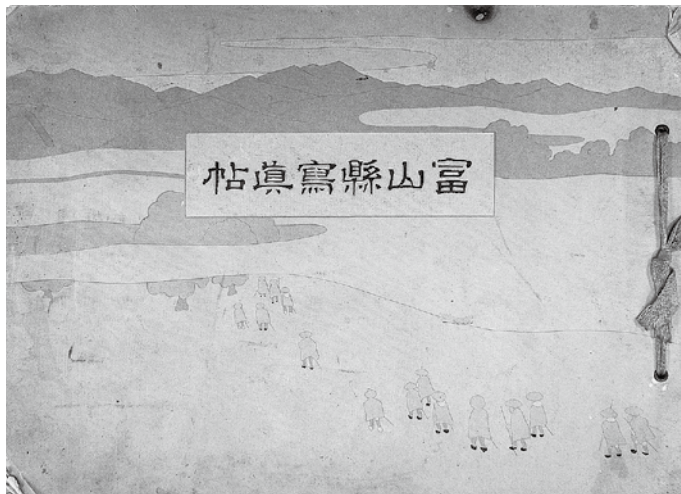
富山県売薬同業組合が作成した富山県主催一府八県連合共進会のリーフレットである。

同共進会は富直線開通を記念して、富山市郊外の堀川村の女子師範学校敷地（現在の富山いずみ高校）を本会場に、高岡市や水族館を設置した魚津町も会場として9月1日から10月20日まで開催された。上段に本会場、中段に「富山県会議事堂」、「高岡公園」（現、高岡古城公園）、下段に「魚津鯛網」、「伏木築港」を配し、中～下段をそれぞれ桐、鳳凰、鯛、千鳥の形の枠で囲むという工夫を行っている。

（河尻家文書 富山県公文書館蔵）

❖『富山県写真帖』

大正2年(1913)9月15日



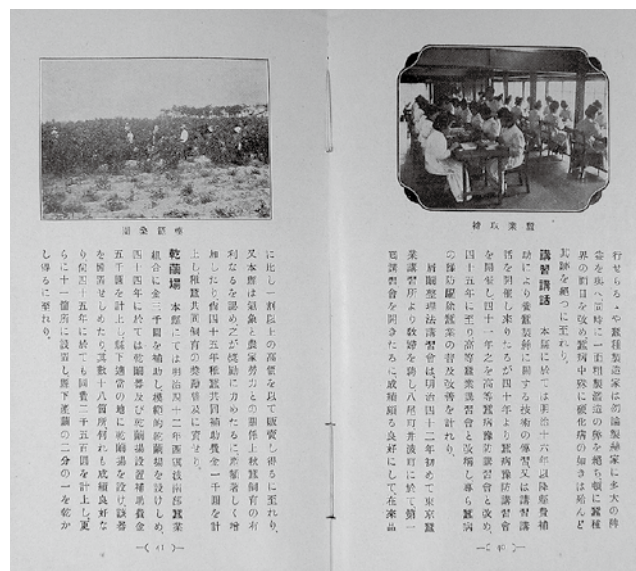
共進会に合わせて、富山県協賛会が発行した富山県の名所などを掲載する写真帖である。

『富山県案内』（下段掲載）とは異なり、旅人の姿をもとにデザインされたカラーイラストの表紙を付け、紐（リボン）で綴じて可愛らしい印象を与える。共進会の会場や県の名所旧跡、文化財などの写真を大きく掲載し、共進会の記念誌という側面がみられる。

（山本家文書 富山県公文書館蔵）

❖『富山県案内』

大正2年(1913)8月30日



同じく共進会の開催に合わせて富山県協賛会が発行した、富山県を紹介した案内書である。

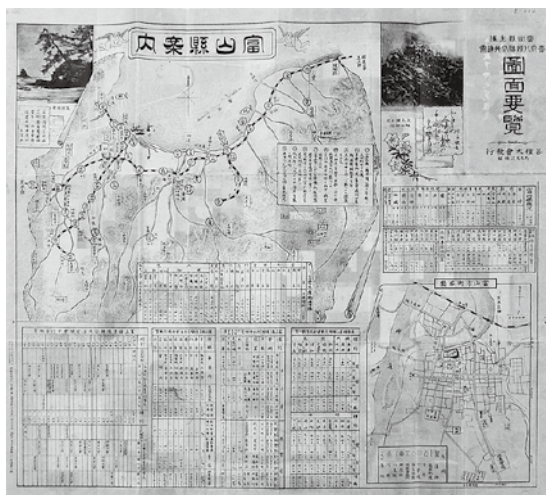
二編で構成されており、上編では県勢について交通実業や教育、新聞雑誌などを掲載している。下編は各市町村の名所や旧跡について、写真を添えて紹介している。手帳サイズで携帯しやすく、他県から訪れた人にとっては見ながら富山県を旅行できる、現代のガイドブックのような本である。

（岡崎家文書 富山県公文書館蔵）

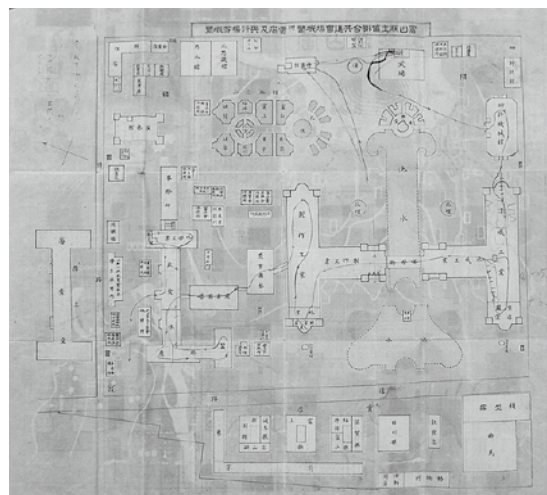
❖ 富山県主催一府八県連合共進会図面要覧

大正 2 年(1913)

表



裏



一府八県連合共進会の概況を分かりやすくまとめた文書と会場見取り図である。

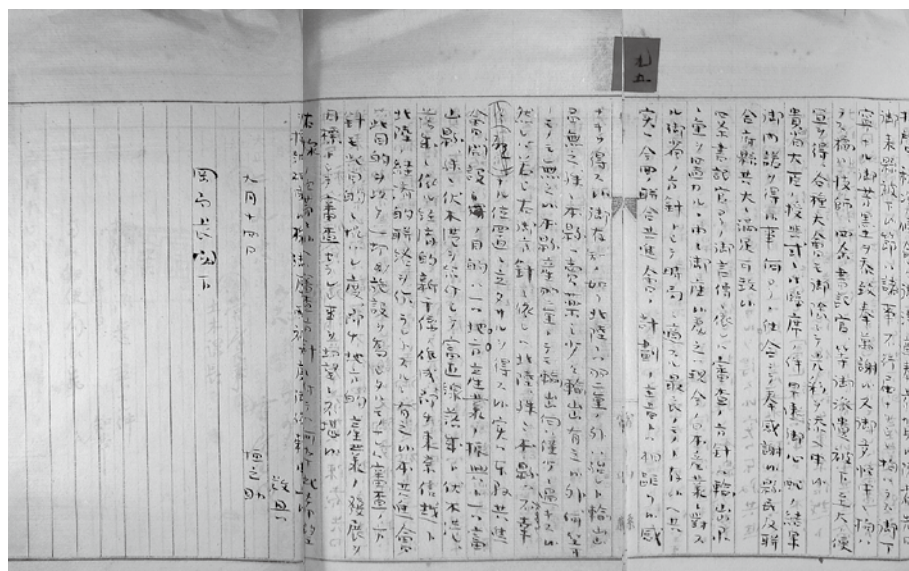
両面印刷され、表面には、富山県全体地図や富山県の概況、主要産物価格などが、裏面には富山市郊外の堀川村の本会場見取り図が載せられている。

会場見取り図には、赤インクで手書きした閑院宮夫妻の視察経路が記入されている。

(富山県公文書館蔵)

❖ 共進会出品審査に関する方針

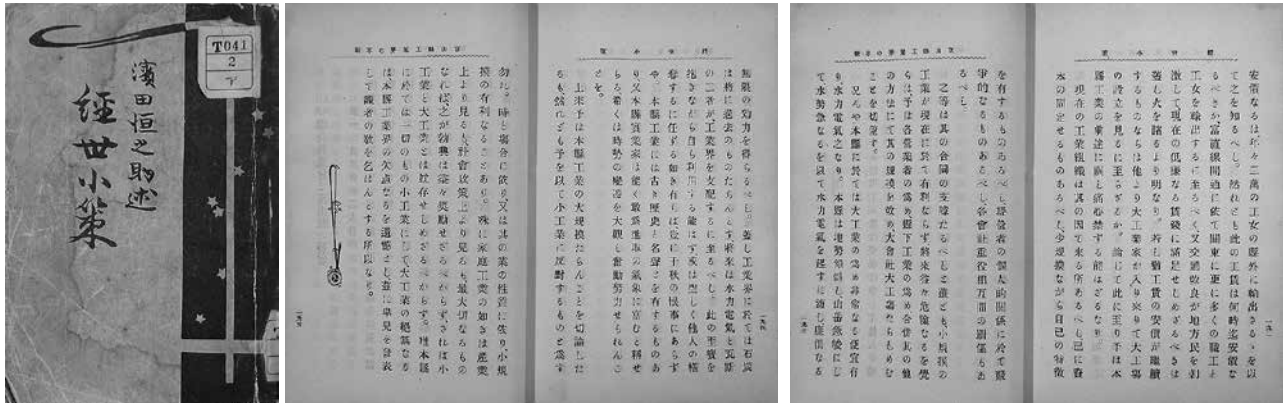
大正 2 年(1913) 9 月14日



共進会に出された品の審査方針について、富山県知事濱田恒之助から農商務省の商工局長に対して提出された依頼書の下書きである。

共進会の開催にあたり、政府は「輸出」できる品物であることを重視した審査方針を執ろうとしていた。しかし、濱田は富山県や北陸の現状を示し、地方産業の発展を目標とした審査方針にしてほしいと訴えている。共進会の褒賞授与式は10月20日に行われたが、直前まで政府との調整があったことが窺える。『経世小策』(5 頁) にも記された、濱田の県政指針が窺える史料である。

(富山県公文書館蔵)



富山県第14代知事である濱田恒之助の著書である。

濱田は、明治43年(1910)6月から大正4年8月までの5年3か月在任した。この著書は新聞への寄稿をまとめたものであり、全251頁「連合共進会と富山県の発展」や「富山県治水策」など、計20章に分けて大正初期の富山県の出来事や風俗、それらに関する所感を交えて論説している。

第14章「富山県工業界の革新」では、現状は小規模な工業の発展に留まっているが、今後大規模な工業化を図る必要があり、そのためにも将来工業界を支配するであろう水力発電と瓦斯（ガス）のうち、富山県の地勢を生かし水力電気を開発することで廉価で無限の効力を得られると述べている。

(富山県立図書館蔵)

富山県内で水力発電を行っている電気事業者の発生電力などが記された報告書である。当時の富山県では、水利使用料徴収のため電力会社に報告書の提出を年に2回求めていた。

大正期には県の水力発電開発が進行し、水力発電量が増加した。県営の富山電気株式会社や中央の大企業であった日本電力株式会社、地元の中小電力会社の名前がわかる資料である。

(富山県公文書館蔵)

大正14年(1925)

[illegible][illegible][illegible]

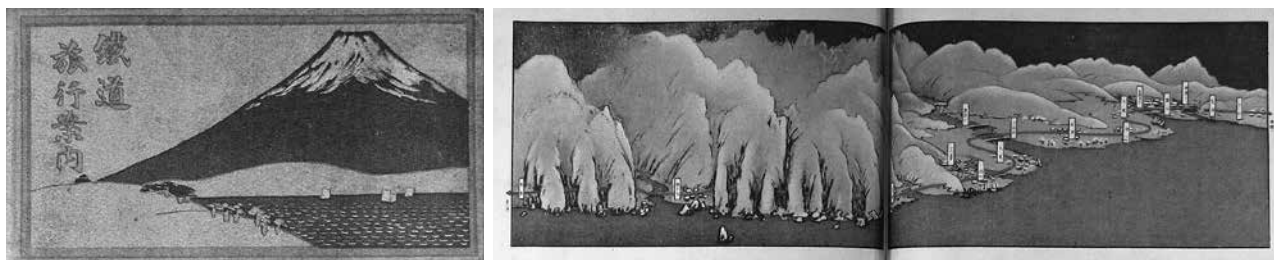
大正13年(1924)までに発電ができている地点、さらに未竣工である地点をまとめた表である。

使用目的の項目をみると、既発電地点では一般電燈電力供給が主で特殊供給、化学工業経営用の使用は少ないが、大正13年末現在で未竣工地点の使用目的では「アルミニウム製造・鋳山工業・化学工業経営」などが増え、関連会社が企業者として参入している。大正末期の工業分野への電力供給が増大しつつある様子が窺える。なお、大正中期から昭和初期にかけて、電気製鉄（現、JFEスチール）や日本人造肥料（現、日産化学）などの県外資本の工場が、格安の電力を求めて高岡の伏木や富山に進出した。

(富山県公文書館蔵)

❖『鉄道旅行案内』

大正10年(1921)頃

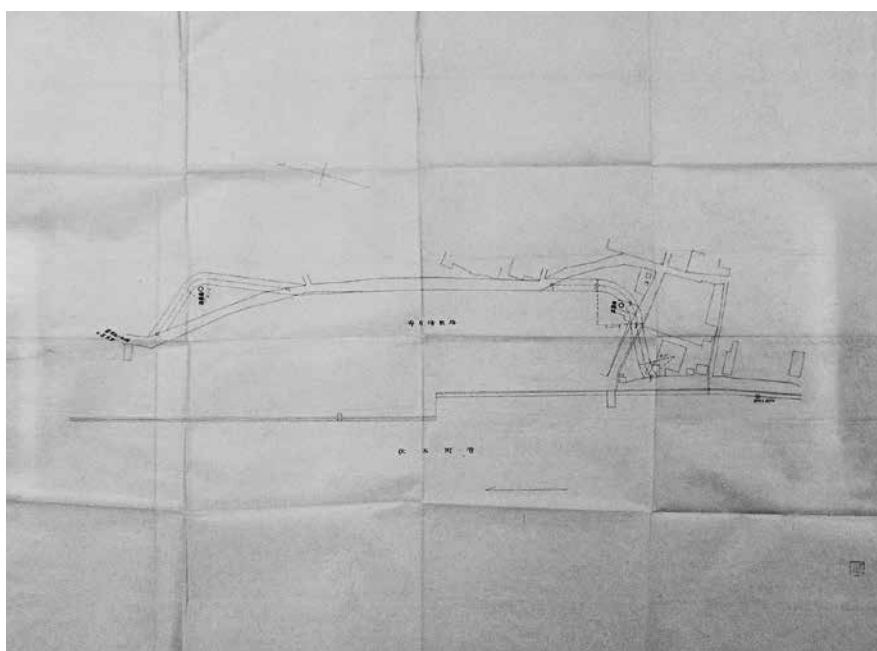


『鉄道旅行案内』は、大正から昭和初期にかけて鉄道省が作成した全国版の鉄道旅行案内書である。手頃に持ち運べるよう、ほぼ新書版に近い大きさで、装幀・挿絵は吉田初三郎が手がけた。各路線の総距離や所要時間のみならず、路線近郊の都市や諸産業の説明、温泉地や観光地などの解説文が記載されている。鉄道の沿線地域を鳥瞰図にして見開き2頁の構図に収めている。

(枡田家文書 富山県公文書館蔵)

❖ 中伏木停車場共同使用区域内工事方法書の図面

大正6年(1917)



中越鉄道はすでに現在の氷見線や城端線を開通させていたが、伏木港を介しての貨物数や旅客数が急増したこともあり、能町一新湊間の軽便鉄道すなわち新湊線の建設を申請した。本書は、中越鉄道から富山県内務部宛てに提出された、沿線上の中伏木停車場の工事方法書の図面であり停車場敷地内の線路配置がわかる。

大正7年(1918)に新湊線は開通したが、昭和26年(1951)には並行路線として走っていた富山地方鉄道高岡軌道線(現在の万葉線)に旅客営業を譲渡することで旅客営業は廃止され、その後貨物路線として営業していた。平成14年(2002)には、貨物路線も廃止となった。

(富山県公文書館蔵)



伏木港の護岸を荷揚場として使用することを認めてもらうための依頼状の起案文である。

伏木港周辺には、大正6年(1917)から同8年の間に電気製鉄株式会社(現、JFEスチール)や株式会社新宮商行之伏木木材工業所、北海電化工業株式会社(現、日本重化学工業)や北海曹達株式会社(現、東亜合成株式会社)などの県外企業の工場が進出し、伏木臨海工業地帯を形成した。翌7年に中越鉄道能町―新湊間(廃線した新湊線)が開業し、同9年には大型汽船が入港するようになると、多くの荷物が集まり置き場に困難が生じるようになった。これを解消するため、伏木港右護岸に荷揚場の設置を願い出たものである。その後、9月27日に内務省より認可された。

同年は富山県において、工業生産額が農業生産額を上回った年でもある。

(富山県公文書館蔵)



伏木河港に設置する荷揚場の設置場所を示した地図である。

地図上には、電気製鉄株式会社(現、JFEスチール)や株式会社新宮商行之伏木木材工業所、北海電化工業株式会社(現、日本重化学工業)や北海曹達株式会社(現、東亜合成株式会社)などの工場名のほか、小矢部川右岸沿いには銀行や会社の名前が連なっている。地図の左下には朱書きで「占用許可すべき区域」とあり、小矢部川右岸沿いにその領域が記されている。

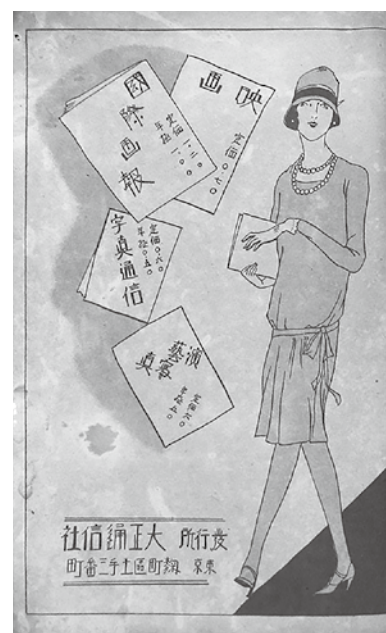
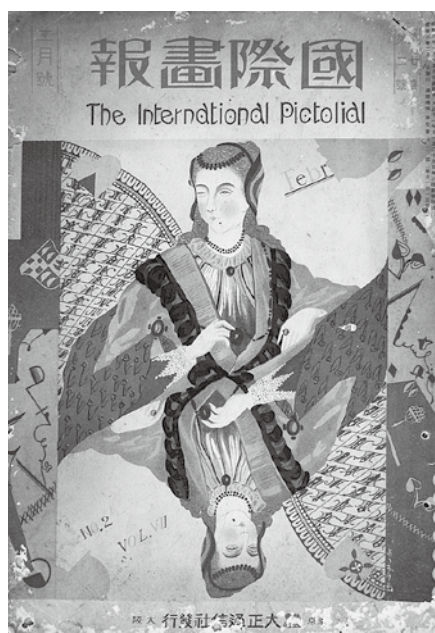
(富山県公文書館蔵)

第Ⅱ部 自立する民衆

「大正デモクラシー」と表されるように、大正時代は政治・社会・文化の各方面で自由主義的・民主主義的な傾向の高まりが見られた時代です。大正末期の大正14年(1925)には人々の念願であった普通選挙法が制定されるなど、民衆の力が政治を動かす力となっていきました。

第Ⅱ部では、富山県における民衆の動きとして米騒動や普通選挙運動に触れつつ、特に当時の女性たちの様子を中心に紹介します。

❖『国際画報』 昭和3年(1928)2月1日発行

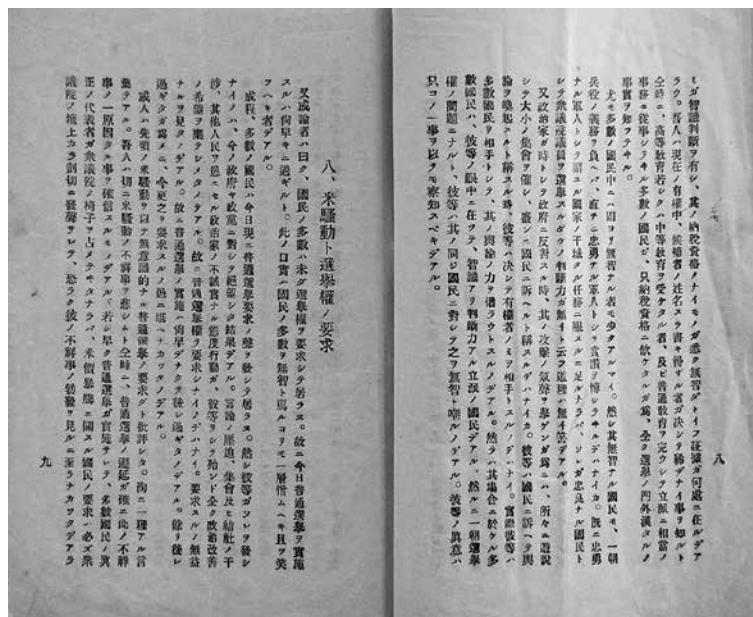
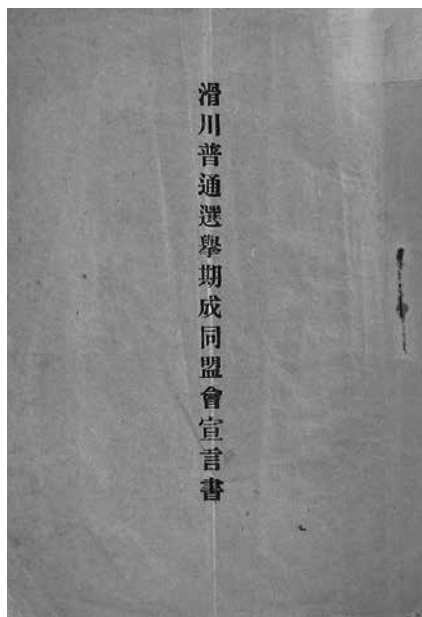


『国際画報』は、大正通信社が大正11年(1922)に創刊したと推定される大判のグラフ誌である。裏表紙の裏には大正通信社が発行している雑誌の紹介とともに、モガ(モダン・ガール)が描かれている。モガは、1920年代(大正9年～昭和4年)の都会で、西洋文化の影響を受けた当時の先端的なファッションを身にまとった女性である。絵では、ミディアム丈のスカートをはき、フィンガーウェーブの髪型で釣り鐘型のクロシェ帽を被っている。一方、裏表紙の広告「クラブ白粉」に描かれている女性は、石畳柄の市松模様をあしらった和装の女性が描かれている。いずれも大正時代の女性の風俗を連想させる絵となっている。

(北野家文書 富山県公文書館蔵)

❖ 滑川普通選挙期成同盟会宣言書

大正7年(1918)10月



大正デモクラシーの高まりの中で、富山県でも選挙権の拡充や集会・言論の自由を求める運動が高まる中、滑川で結成された「滑川普通選挙期成同盟会」の宣言書である。

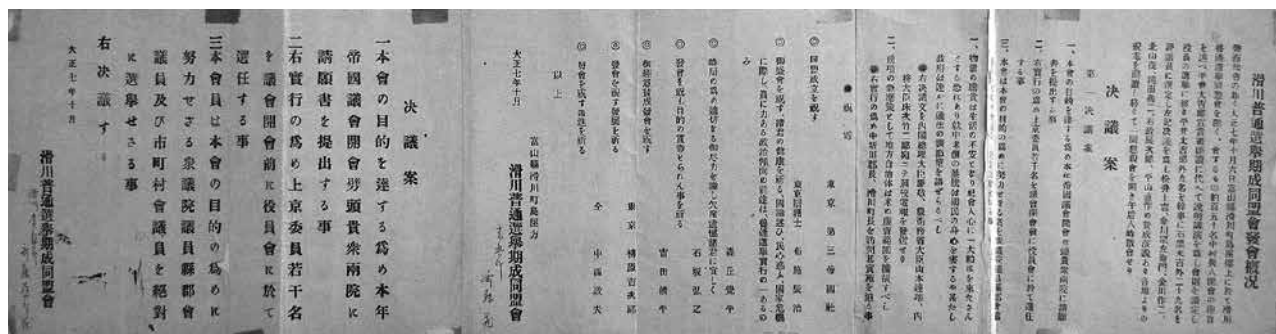
大正7年8月、滑川では米騒動が起きていた。その余韻が残る中、社会運動を展開していた平井太吉郎や松井上吉、中村与八が發起人となり発足した。なお、同会の演説では、米騒動で押しかけられた米穀肥料商・地主の金川宗左衛門も演説した。

宣言書では、もし普通選挙が実施され、多数国民の本当の代表者が衆議院に送られていれば、米騒動のような事件は起こらなかつただろうと記されている。

(滑川市立博物館蔵)

❖ 滑川普通選挙期成同盟会発会概況

大正7年(1918)10月



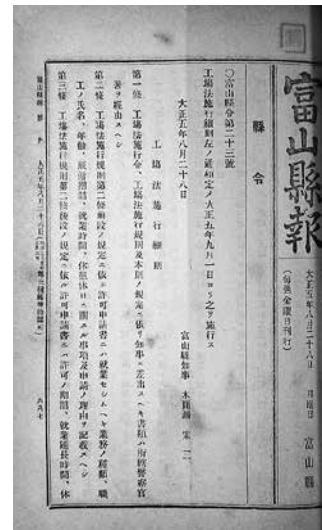
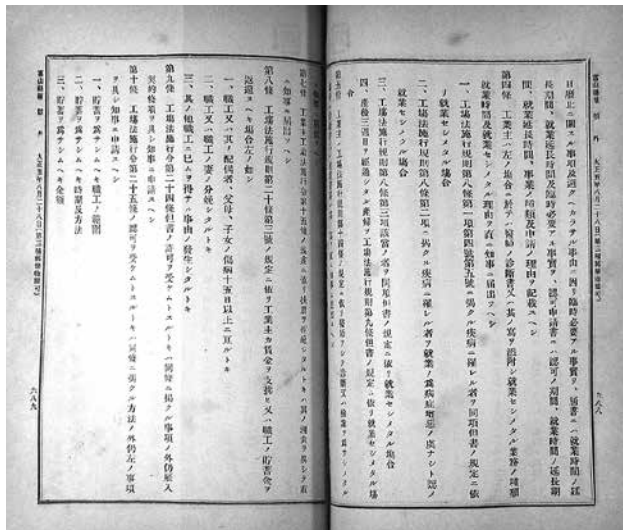
滑川普通選挙期成同盟会が発会した時の演説者や祝電内容、決議案などの大まかな様子をまとめたものである。

20歳以上の男子への選挙権の付与を求める普通選挙運動を展開していた第三帝国社の祝電のほか、大正7年に帝国議会開会前に貴族院、衆議院に対して請願書を提出する決議案などが記されている。

(滑川市立博物館蔵)

❖ 工場法施行細則

大正 5 年(1916) 8 月28日



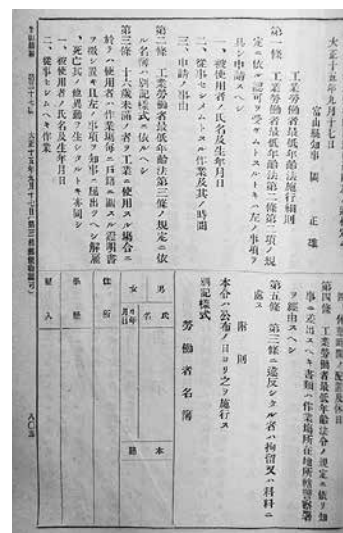
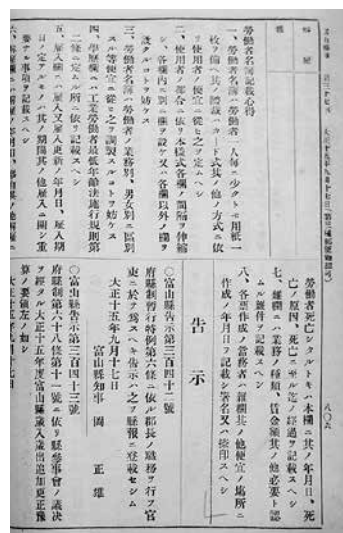
工場法は、明治44年(1911)に制定された日本初の本格的な労働者保護法である。しかし、資本家などの反対もあり、施行されたのは5年後の大正 5 年 9 月 1 日で、従業員15人以下の工場には適用されないなど規制基準は著しく低かった。この施行細則では、工場主は業種や職工の氏名、年齢や雇用期間、就業時間や休憩・休日に関わる内容を所轄警察署を通じて県に提出することが書かれている。

産後三週目の産婦が就業する場合には、医師の診断書が必要であること、学齢児の雇用には届け出が必要であることなど、当時の社会が抱えていた女性や児童の労働問題に対する行政の対応の様子が窺える。

(「富山県報」 富山県公文書館蔵)

❖ 工業労働者最低年齢法施行細則

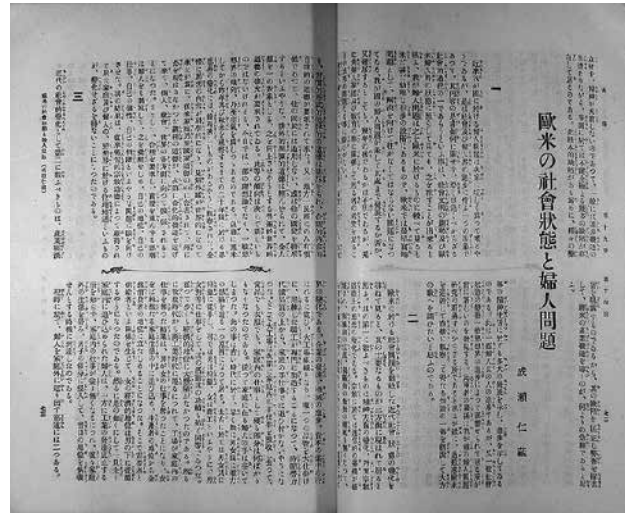
大正15年(1926) 9 月17日



工業労働者最低年齢法は、大正12年(1923) 3 月29日に施行された法律である。原則、14歳未満の学齢児の労働を禁止するものであった。この施行細則では、学齢児の雇用を行う場合には、工場主は雇用理由を申請することや、16歳未満の学齢児が就業する場合には、その作業内容や始業・終業時刻、休憩・休日などをまとめた書類を所轄警察署を通じて県に提出することが書かれている。

工場法施行細則と合わせると、大正期に深刻化する児童の労働問題についての行政の対応策が窺える。

(「富山県報」 富山県公文書館蔵)



雑誌『太陽』に掲載された成瀬仁蔵の寄稿文である。

雑誌『太陽』は、博文館が明治28年(1895)から昭和3年(1928)まで発行した明治・大正期を代表とする総合雑誌である。高山樗牛^{たかやまちよゆう}らが論説を書き、数多くの政治家や学者、評論家や小説家が寄稿した。

成瀬仁蔵は、女子教育に携わり日本女子大学校（現在の日本女子大学）を創設した人物である。また、精神教育を重んじ、出版や通信教育など社会的活動を展開した。大正元年(1912)には欧米を巡遊しており、この寄稿文でもその経験からの知見が述べられている。本文では、欧米の社会状況の変化による女性の社会進出の状況を考察し、日本でも産業経済界の変化により女性の立場が変化していることや、男女の本質などについて述べられている。

(海内家文書 富山県公文書館蔵)

[illegible]

大正時代の富山県の職員録である。県での女性採用の様子を見ると、大正期は特に学校での採用がよく見られる。

地方に置かれた蚕の品質を検査するための役所である原蚕種製造所ではたらく「蚕種検査吏員」、製糸工場で働く女工への技術教育や実業教育を行った「製糸教婦」、児童福祉施設樹徳学園で働いた「保母」やスペイン風邪の流行で事務を担う「防疫監吏」などの職で採用されていた。

(山本家文書 富山県公文書館蔵)

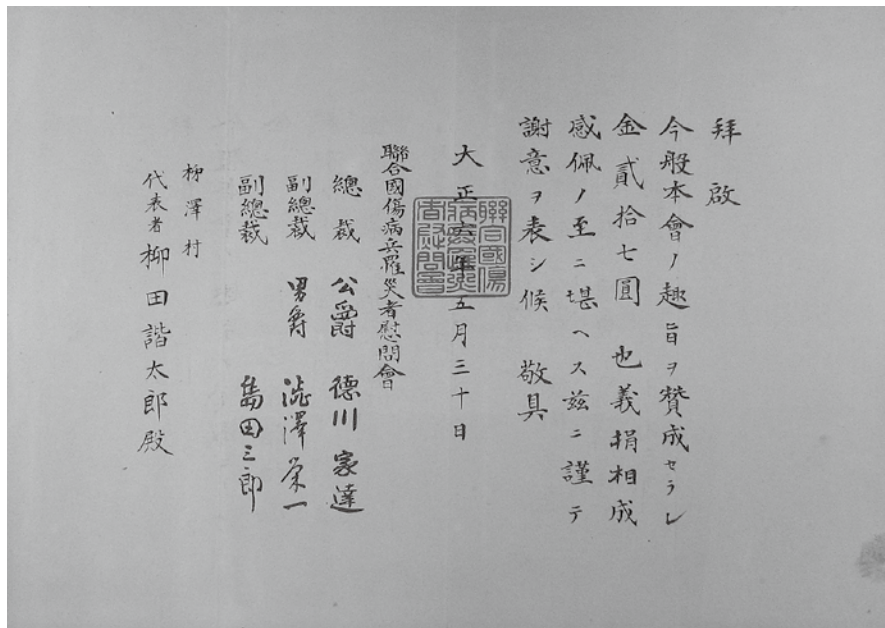
第Ⅲ部 戦争への足音

大正3年(1914)、ヨーロッパを主戦場として第一次世界大戦が勃発しました。被害が甚大であったため、その後の列強は軍縮の動きを見せ、日本もその流れに乗り協調外交を行います。しかし、一方で領土拡張をもくろむ日本は、軍事優先の方針も取り続けました。

第Ⅲ部では、富山県における第一次世界大戦期の様子と大正13年(1924)に富山・石川両県で行われた陸軍特別大演習の様子を紹介します。

❖ 連合国傷病兵罹災者慰問会感謝状

大正6年(1917)5月30日



義捐金寄付に対する連合国傷病兵罹災者慰問会からの感謝状である。

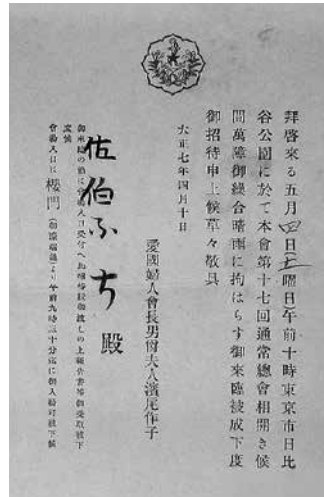
第一次世界大戦はヨーロッパを主戦場とし、各国が兵力や国力の全てをつぎ込む総力戦であった。戦争が長期化する中、連合国軍に慰問使を派遣することが提議され、渋沢栄一が中心となり内閣総理大臣寺内正毅、外務大臣本野一郎、貴族院議長徳川家達、衆議院議長島田三郎らが協議し、連合国傷病兵罹災者慰問会が設立され、全国の実業家や新聞各社を通じて寄付金を募った。

柿沢村(現、上市町)の寄付金に感謝し、当時の村長であった柳(杵の誤り)田諧太郎宛てに送られている。

(杵田家文書 富山県公文書館蔵)

❖ 愛国婦人会第十七回通常総会招待状

大正7年(1918)4月10日



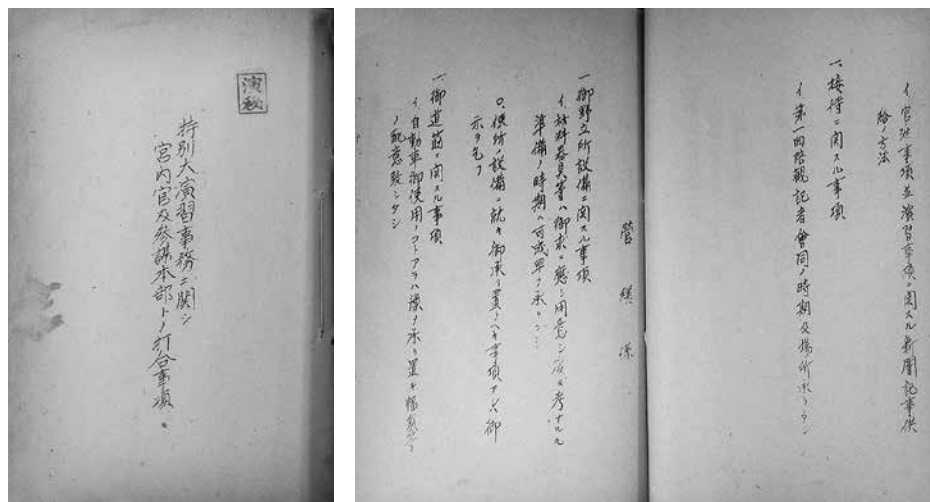
愛国婦人会総会の開催に際し、全国の愛国婦人会の会員に出された招待状である。

愛国婦人会は、軍事援護事業を目的とする婦人団体で明治34年(1901)に創立し、同37年の日露戦争の際には、慰問袋の作成や兵士の見送りなどを行った。設立当初は上流階級層の婦人を中心として組織されていたが、第一次世界大戦末期には民主主義隆盛の影響も受け、社会事業にも取り組むようになり、大衆的な組織へと変化し会員数も増加した。その後、第二次世界大戦期に入ると、昭和17年(1942)に大政翼賛会の下部組織である大日本婦人会に統合された。

(篠原氏収集文書 富山県公文書館蔵)

❖ 特別大演習に関し宮内官及び参謀本部との打ち合わせ事項

大正13年(1924)



陸軍特別大演習の実施のため、宮内官や参謀本部との打ち合わせに関する事務関係の書類である。

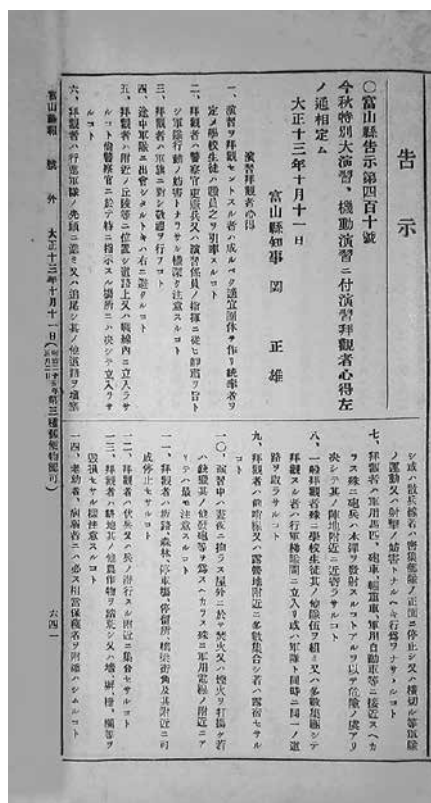
陸軍特別大演習は、大正13年11月3日から5日かけて、富山・石川両県で摂政宮（後の昭和天皇）の統監のもと実施された。3日は富山県で行われ、西砺波郡埴生村（現、小矢部市）に御野立所が設置された。県では営繕係や接待係などの係に分かれて、事前準備を行った。

御野立所とは、皇族が野外で休憩する場所をさす。営繕係は、事前に必要なものなどの情報提供や、自動車を使用する場合の道幅の配慮など、細かな内容を宮内官と打ち合わせていることが分かる。

(富山県公文書館蔵)

❖ 演習拝観者心得

大正13年(1924)10月11日



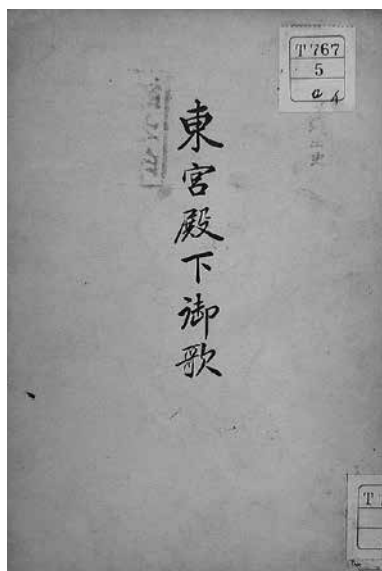
陸軍特別大演習の拝観者に対する心得22か条の告示である。

陸軍特別大演習の実施に当たり、民衆の拝観も許可された。演習の障害になることを防ぐため、統率者を定めて団体で観ること（第1条）、危険を防ぐため陣地付近に近づかないこと（第7条）、伏兵などに近寄らないこと（第12条）や、耕地や農作物を踏み荒らしたり民家の壇や塀、柵を壊したりしないこと（第13条）など周辺地への配慮事項も規定されている。

（「富山県報」 富山県公文書館蔵）

❖ 東宮殿下御歌の楽譜

大正15年(1926)



大正14年1月20日の歌会始で「山色連天」の勅題で、摂政宮（後の昭和天皇）が詠んだ和歌「たて山の空に^{そび}ゆるをゝしさに ならへとそ思ふ御代の姿も」の楽譜である。

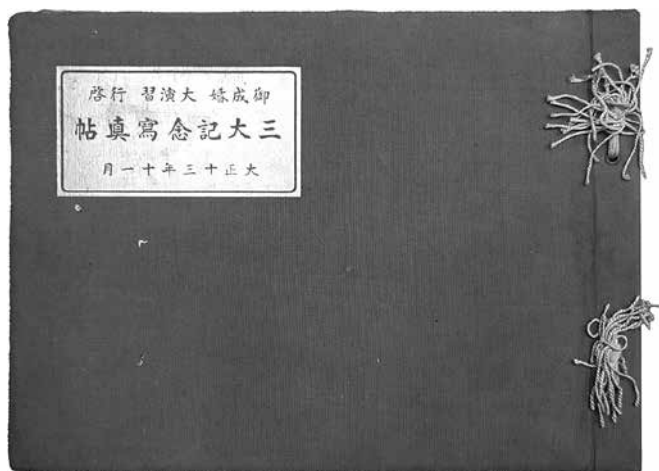
歌会始前年の陸軍特別大演習は秋晴れであり、殖生御野立所（現、小矢部市）からは立山連峰がよく望めた。その情景を読んだ和歌に、東京音楽学校教授の岡野貞一が曲を付け、その後、「富山県民の歌」として歌われた。岡野は文部省唱歌の作曲委員を務め、「春がきた」や「ふるさと」などの作曲で有名である。

なお、立山三ノ越には歌碑が刻まれている。

（富山県立図書館蔵）

❖『御成婚・大演習・行啓三大記念写真帖』

大正14年(1925) 3 月30日



大正13年(1924)の摂政宮（後の昭和天皇）の結婚、富山県で実施された陸軍特別大演習と富山市内への行啓を記念して出版された写真集である。

写真の内容は、特別大演習の内容を中心に収められているが、大演習の内容だけでなく、当時の人々の様子や農村の風景を知ることができる。後半部分には、富山県の名所や富山県の名士の写真が収められている。

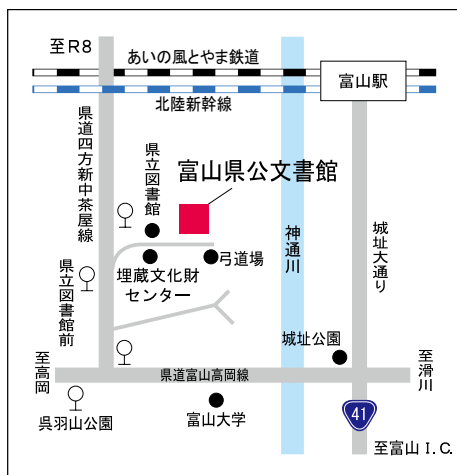
（長尾家文書・枅田家文書 富山県公文書館蔵）

「富山大正ストーリー～15年間ヲ思フ～」 関連年表

和 暦	西暦	月	富山県での出来事	世界・日本の出来事	第Ⅰ部	第Ⅱ部	第Ⅲ部
明治30年	1897	11	富山電燈株式会社設立（明治32.4.2開業）		○		
明治31年	1898	1	中越鉄道高岡－城端間開通		○		
明治32年	1899	4	電気事業初の水力発電所（大久保発電所）が送電開始		○		
		7	勅令により伏木港を自由貿易のできる開港場に指定		○		
明治33年	1900	3		治安警察法制定		○	
		12	中越鉄道高岡－伏木間開通		○		
明治43年	1910	7	石動電気(株)設立(明治44年9月10日開業)		○		
明治44年	1911	3		工場法制定		○	
明治45年 (大正元年)	1912	5	庄川改修工事並びに第1期伏木築港工事竣工		○		
		7		明治天皇崩御 大正天皇即位			
		11	県令第9号「軽便鉄道及び軌道県補助規程」制定				
大正2年	1913	4	富山－直江津間鉄道開通(北陸本線の開通)		○		
		9	一府八県連合共進会が上新川郡堀川村(現富山市)で開催(9月1日～10月20日) 富山電気軌道開通		○		
			閑院宮夫妻が来県		○		
		10	伏木築港竣工祝賀会開催		○		
大正3年	1914	7	県告諭第1号「富山県産業奨励方針について」発布		○		
		8		第一次世界大戦開始(～大正7年(1918)11月11日)			○
大正4年	1915	5		日英同盟に基づきドイツに宣戦布告			○
大正5年	1916	8	県令第23号「工場法施行細則」制定(9月1日施行)			○	
大正6年	1917	9		工場法施行		○	
		2		ロシア革命(二月革命)勃発			
		11	通常県会で井上孝哉知事が県営電気事業推進の予算説明	ロシア革命(十一月革命)勃発し、ソビエト政権誕生	○		
大正7年	1918	1	中越鉄道能町－新湊間開業(後の新湊線)		○		
		8		スペイン風邪が流行(～大正9年)			
		4	石動の羽二重女工が賃上げを要求しストライキ			○	
		5	米価の高騰が新聞で報道される			○	
		7	魚津の漁民らが海岸で騒動(23日)			○	
		8	中新川郡水橋町で女たちが米屋に米の廉売を哀願し、滑川町でも騒動が起こる(3～6日)	シベリア出兵を宣言		○	
		10	滑川普通選挙期成同盟会が結成し、宣言書発表			○	
大正8年	1919	6		ベルサイユ条約締結			
大正9年	1920	1		国際連盟成立、日本も加盟			
		3		株価暴落を機に戦後恐慌発生			
		4	県、国勢調査部に女性書記1人、庁内電話交換手に女性2人を採用			○	
		6	県令第52号「富山県電気局規定」制定、電気局設置		○		
大正10年	1921	12		ワシントン海軍軍縮条約締結(ワシントン体制の始まり)			○
			富山県の工業生産額が、初めて農業生産額を上回る		○		
大正12年	1923	3		工業労働者最低年齢法施行		○	
		9		関東大震災発生(1日)			
大正13年	1924	4	県営和田川上滝発電所、松ノ木発電所、中地山発電所が日本電力へ送電を開始する。		○		
		11	摂政宮(後の昭和天皇)を迎え、富山・石川両県内で陸軍特別大演習実施(～5日)				○
			摂政宮、富山市に行啓				○
大正14年	1925	1	歌会始(勅題「山色連天」)で摂政宮の「立山の御歌」が披露される				○
		4		治安維持法制定		○	
		5	歩兵第35連隊が富山市に移駐	普通選挙法制定		○	○
		6	女性の自動車運転免許第1号			○	
		9	下新川郡女工保護組合の創立			○	
大正15年 (昭和元年)	1926	9	県令第151号「工業労働者最低年齢法施行細則」制定			○	
		12		大正天皇崩御 昭和天皇即位			

企画展史資料一覧

		史資料名	所蔵	実物	パネル	パンフ	年月日	請求番号/整理番号
第Ⅰ部 工業化を 図る富山県	富山県 主催一府 八県連合 共進会	富山県主催連合共進会リーフレット(河尻家文書)	富山県公文書館	○		○	大正2年9月1日	
		『富山県案内』(岡崎家文書)	富山県公文書館	○		○	大正2年8月30日	八〇―3
		『富山県写真帖』(山本家文書)	富山県公文書館	○		○	大正2年9月15日	
		共進会出品審査の方針に関する件	富山県公文書館	○		○	大正2年9月14日	A-54-95
		拝謁者に干する件	富山県公文書館	○			大正2年9月19日	B-4-1
		拝謁之証	富山県公文書館	○			大正2年	B-4-26
		富山県主催一府八県連合共進会図面要覧	富山県公文書館	○	○	○	大正2年	B-4-26
	産業発展	大正初期の富山電気軌道(『置県百年』)			○			
		『経世小策』	富山県立図書館	○		○	大正2年2月26日	
		告諭第1号「富山県産業奨励方針についての告諭」(富山県報)	富山県公文書館	○			大正4年7月1日	
		県令第52号「富山県電気局規程の告知」(富山県報)	富山県公文書館	○			大正9年6月18日	
		富山県常願寺川筋朝日前堤防工事濱田知事巡視(山本家文書)	富山県公文書館		○		大正4年	
		東園基光と各部長、課長ら(山本家文書)	富山県公文書館		○		大正10年	
		濱田恒之助写真	富山県公文書館		○			
		井上孝哉写真	富山県公文書館		○			
	水力発電 事業	東園基光写真	富山県公文書館		○			
		発生電力報告の件	富山県公文書館	○		○	大正14年10月10日	A-114-4
		発生電力報告書	富山県公文書館	○			大正14年9月19日	A-114-4
		既発電地点と未竣工地点	富山県公文書館	○		○	大正14年10月	A-114-4
		大久保発電所(『置県百年』)			○			
		小矢部発電所(『置県百年』)			○			
	伏木港	県営上滝発電所(『置県百年』)			○			
		富山県下の成金(『富山日報』)	富山県立図書館		○		大正6年12月21日	
		伏木河港荷揚場・棧橋・繫船壁位置平面図	富山県公文書館			○	大正11年	A-98-1
		伏木河港荷揚場使用並占用規程制定の稟請書	富山県公文書館	○		○	大正10年5月27日	A-98-1
		伏木港、大阪通信局伏木出張所、伏木税関支署(『富山県写真帖』山本家文書)	富山県公文書館		○		大正2年	
	鉄道	伏木臨海工業地帯の様子(『置県百年』)			○			
		中伏木停車場共同使用区域内工事方法書の図面	富山県公文書館	○			大正6年	H-26-10
		『鉄道旅行案内』(栢田家文書)	富山県公文書館	○		○	大正10年頃	六-83
	大正時代の富山県 知事	富山軽便鉄道株式会社経営祝富山笹津間開通(『北陸タイムス』)	富山県立図書館		○		大正3年12月5日	
		木間瀬策三写真	富山県公文書館		○			
		信太時尚写真	富山県公文書館		○			
		伊東喜八郎写真	富山県公文書館		○			
		岡正雄写真	富山県公文書館		○			
第Ⅱ部 自立する 民衆	米騒動と 滑川普通 選挙運動	白神佑吉写真	富山県公文書館		○			
		富山県告示196号「御下賜金につき」(富山県報)	富山県公文書館	○			大正7年8月16日	
		滑川普通選挙期成同盟会宣言書	滑川市立博物館	○		○	大正7年10月	
		滑川普通選挙期成同盟会発会概況	滑川市立博物館	○		○	大正7年10月	
		魚津女仲仕(『置県百年』)			○			
		女軍米屋に薄る(『高岡新報』)	富山県立図書館		○		大正7年8月4日	
		輿論を無視したる悪法治安維持可決(『富山新報』)	富山県立図書館		○		大正14年3月8日	
		憲政史上―新紀元を割る普通選挙法日度成立(『富山日報』)	富山県立図書館		○		大正14年3月30日	
	工場法	治安警察法に基く屋外多衆の運動の件につき通牒	富山県公文書館	○			大正1年11月16日	A-59-213
		県令第23号「工場法施行細則」(富山県報)	富山県公文書館	○		○	大正5年8月28日	
		県令第151号「工業労働者最低年齢法施行細則」(富山県報)	富山県公文書館	○		○	大正15年9月17日	
		工場法	国立公文書館		○		明治44年	
	モガ	『太陽』第19巻第14号(海内家文書)	富山県公文書館	○		○	大正2年11月1日	一一-351
		『国際画法』2月号(北野家文書)	富山県公文書館	○		○	昭和3年2月1日	
	女性の労働 (職業婦人)	公告「小学校教員免許授与者」(富山県報)	富山県公文書館	○			大正2年1月10日	
		告示「産婆名簿登録」(富山県報)	富山県公文書館	○			大正3年2月6日	
		『富山県職員録』(山本家文書)	富山県公文書館	○		○	大正3年、大正5年、 大正6年、大正7年、大正10年	
		県で最初的女性書記採用(『富山日報』)	富山県立図書館	○			大正9年4月2日	
		県内初的女性運転手(『写真集 富山100年』)	北日本新聞社		○		大正14年5月	
		女工達の凄い鼻息に大製薬会社が俄を折る(『富山新報』)	富山県立図書館		○		大正15年4月15日	
第Ⅲ部 戦争への 足音	第一次 世界大戦	軍人家族救助に関する件	富山県公文書館	○			大正3年10月9日	A-64-96
		連合国傷病兵罹災者慰問会感謝状(栢田家文書)	富山県公文書館	○		○	大正6年5月30日	六-74
		愛国婦人会第十七回通常総会招待状(篠原氏収集文書)	富山県公文書館	○		○	大正7年4月10日	2-51
		歩兵第35連隊の正門(『置県百年』)			○			
		歩兵第31旅団司令部(『置県百年』)			○			
		歩兵第69連隊(『置県百年』)			○			
	陸軍特別 大演習	特別大演習事務に関し宮内官及び参謀本部との打ち合わせ事項	富山県公文書館	○		○	大正13年	G-4-1
		公示410号「演習拝観者心得」(富山県報)	富山県公文書館	○		○	大正13年10月11日	
		『御成婚・大演習・行啓三大記念写真帖』(長尾家文書)	富山県公文書館	○		○	大正14年3月30日	6-62
		『御成婚・大演習・行啓三大記念写真帖』(栢田家文書)	富山県公文書館	○		○	大正14年3月30日	六-81
		東宮殿下御歌の楽譜	富山県立図書館	○		○	大正15年	
		大阪朝日新聞発行「関東震災全地域鳥瞰図絵」(荒木家文書)	富山県公文書館		○		大正13年	18-5
		東宮殿下 御野立所(県庁前公園)			○			
		皇太子殿下県民に対し御優詔(富山県報)	富山県公文書館		○		大正13年11月12日	



交通機関

JR富山駅発バス

- 北代循環〈県立図書館前〉下車 ……徒歩5分
- 新港東口行、四方向行〈県立図書館前〉下車 ……徒歩5分
- 高岡・小杉方面行〈呉羽山公園〉下車 ……徒歩10分

